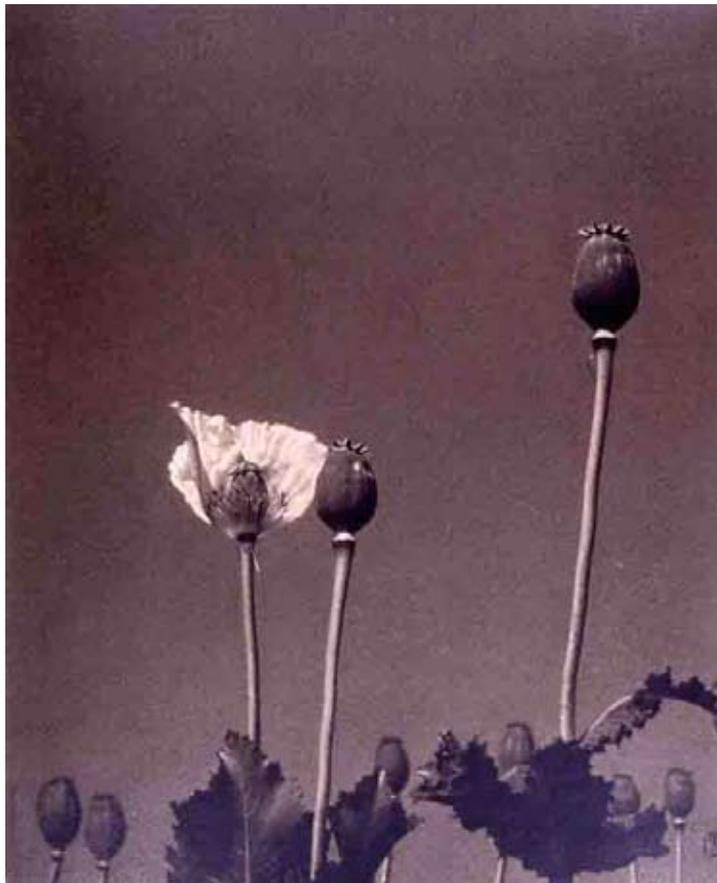


画家の眼差し、レンズの眼

19世紀に日本に西洋から伝わった洋画と写真、そして印刷技術。これらの技術は19世紀から20世紀にかけての美術にさまざまな変化をもたらしました。とくに写真というレンズを通して見える世界は、新しいメディアとして人々の知覚にこれまでにない驚きと発見を与え、絵画にも大きな影を投げかけました。伝来当初「迫真」という点において、画家は絵画の題材を写真から採るなどして絵画と写真の相互的な関係を活用しましたが、明治半ば以降、写真の芸術性が唱えられるようになると、写真家は絵画を意識した写真を制作するようになります。「ピクトリアリズム(絵画的写真)」と呼ばれるそれらの写真は、絵画との関係を考える上で欠くことはできません。大衆化が進む一方で、写真ならではの表現による「芸術写真」が生まれてきます。絵画と写真はつねに互いを意識し影響しあいつつも、独自の表現を追求してきました。

これまでもヨーロッパにおける絵画と写真に関しては紹介されることはありましたが、近代日本という舞台上、絵画と写真の関係を実際の作品として並置させて知覚の表現手段としてどう互いに影響しあい、または自律していったかということを検証した機会はあまりありませんでした。今回の展覧会では、まずは19世紀の新しい視覚体験として少なからず衝撃を与えた写真の登場からはじめ、写真と油彩画、日本画あるいは版画といういくつかのメディアを対比させて、幕末から1939年の国画会の写真部門創設をひとつの区切りとして、日本でのリアリズムの問題や近代絵画、近代写真の成立を考える試みです。写真50点、油彩画50点、日本画20点、版画80点、総計約200点を展示いたします。



梅阪鷺里《題不詳(芥子)》1930年代 ゴム印画 大阪市立近代美術館建設準備室

近代日本の写真と絵画

会 期：2009年6月27日(土)―8月23日(日)

※会期中に展示替があります。

前期 6月27日～7月26日 後期 7月28日～8月23日

会 場：神奈川県立近代美術館 葉山

休 館 日：月曜日(ただし7月20日は開館)、7月21日

開館時間：午前9時30分～午後5時[入場は午後4時30分まで]

観 覧 料：一般 1000円(団体900円)、20歳未満と学生 850円(団体750円)、65歳以上 500円、高校生 100円(ただし、高校生の方は6月末までは無料です。)

中学生以下、障害者の方は無料です。

主 催：神奈川県立近代美術館、日本経済新聞社

担当学芸員によるギャラリー・トーク

7月4日(土)、8月8日(土) いずれも14:00から
申し込み不要、無料(ただし観覧券が必要です)

ファミリー・コミュニケーションの日

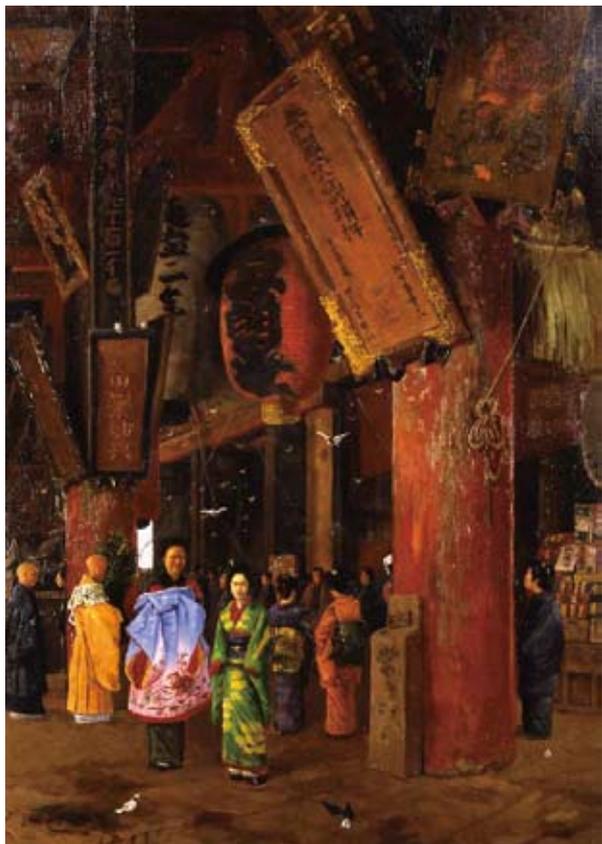
毎月第一日曜日(今回は7月5日と8月2日)は、18歳未満または高校生以下のお子様連れのご家族は、全員無料でご覧いただけます。

■お問い合わせ先 神奈川県立近代美術館 葉山
〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色 2208-1
tel.046-875-2800 / fax.046-875-2968
広報担当：土居由美
展覧会担当：長門佐季、橋秀文

■展覧会情報は、美術館ホームページでもご覧いただけます。
ホームページトップ <http://www.moma.pref.kanagawa.jp>

Photographs and Paintings in Modern Japanese Art

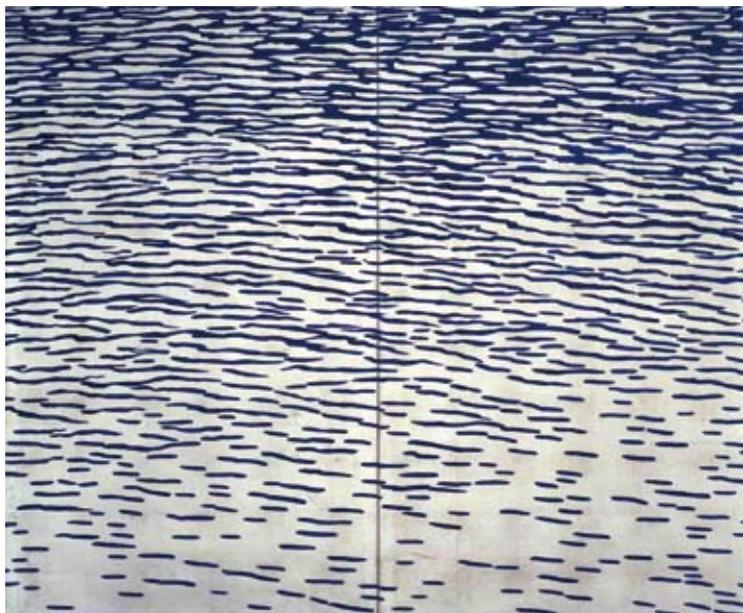
画家の眼差し、レンズの眼 近代日本の写真と絵画



安藤仲太郎《日本の寺の内部》 1893年 油彩、カンヴァス 当館蔵



《Inside Asakusa Temple Tokio (浅草寺内部 東京)》 明治時代 鶏卵紙
国際日本文化研究センター蔵(前期のみ展示)



福田平八郎《漣》 1932年 絹本着色 大阪市立近代美術館建設準備室蔵(後期のみ展示)



岡本東洋《漣》 1936年 『美術写真大成 秋1』(後期のみ展示)



五姓田芳柳《浅野公 夫婦の肖像》 1882年 絹本彩色 星野画廊蔵